

十和田市 秋まつり

笛の音色が響き渡る。
まつりが始まった。



- 1 大太鼓と小太鼓のかけ合いが力強い旋律を生み出す。荘厳な山車と太鼓の競演は人々の目を惹きつける。
- 2 官庁街通りにずらりと並んだ露店もまつりの醍醐味のひとつ。
- 3 水槽に浮かんださまざまな色の石を慎重に選ぶ宝石のつかみどり。悩むのもまた楽しい。



- 4 2日目に開催された十和田囃子競演会。各町内会の精鋭が渾身のお囃子を披露。公園街地区町内会連合会は王者の風格で圧巻の3連覇を遂げた。
- 5 山車の引き手たち。力強く前に進む。
- 6 流れる汗もそのままに、みこしを担ぐ。「わっしょい、わっしょい!!」



小太鼓の軽快なリズムはお囃子の柱。
力の限りばちを振るい、声を張り上げる。



時に激しく、
時に優雅に。



背中では語る。



- 7 視線を合わせるだけで想いは伝わる。一緒に声を合わせて「ヤーレ、ヤーレ!!」
- 8 運行出発前におめかしをして、身だしなみを整える。晴れ舞台に自然と表情が引き締まる。

9月の空は気まぐれだ。雲行きが怪しくなり、時おり激しく降る雨。「また今年も雨か」人々のため息が聞こえる。

しかし、三本木の地は揺るがない。匠たちは、趣向を凝らして作り上げた山車が動く様をじっと見つめる。ゆつくりと、勇壮に山車は動き出す。まつりが始まった。

笛の音が鳴り響く。力強い太鼓の拍子。小気味いい鉦の音。威勢のよい掛け声。老若男女が力を合わせ、力の限り声を張り上げる。地に足をつけ、歩みを止めない。前に。前に。前に。

天に声が届いたかー雨は上がった。笑顔が溢れる。まつりは幕を閉じ、街はいつもの時間を紡ぎだす。ただ、人々の胸にはいつまでもお囃子が鳴り響く。誇りとともに。

■十和田市秋まつり
9月9日から11日まで開催。17団体による山車の運行とみこし7台の運行のほか、駒踊りなどが行われた。

西茜会は、総合優勝である市長賞、山車・太鼓車審査部門賞の会頭賞。夜間運行では金駒賞、錦駒賞を獲得。最高の結果に喜びに沸く。

